

# 全学斗通信

1168  
11.29  
No. 48

東京教育大学全学斗争  
委員会発行

へ昨日「緊急評議会」で、全学集会（＝実質的大  
衆闘争）を前提とした予備折衝決定...

一五の目以上に及び長期バリエーションを  
斗り抜けている。至るの学友諸君、全学斗争委員  
は、全学友に、緊急かつ重要な事実をまずもって報  
告しなければならぬ。昨日、予定より一日早く  
開かれた緊急評議会は、極めて重要な決定をなして  
いったのである。即ちそれは「11月14日付、評議会  
議長よりの、各自自治会への回答」であり、自治会  
側に至学集会を行うことを前提とするようとの希望  
があり、また評議会は、これを審議した結果、評議会と  
至学生との集会を行うことを確認した。この全学集  
会のための、各学部学生代表との話し合い、並びに  
その予備折衝の方法については前回回答の通りである  
従って、今回の決定は具体的な過程は、まだ十分示  
されておらず、(A)全学集会、(B)Cの性格、  
内容については予備折衝、(C)Dについても予備  
折衝（予備折衝の予備折衝）という形を予想してお  
り、国交の内容についても、予備折衝の中で決定し  
てゆくこと。しかも半息に全学集会を行いたいので  
直ちに各学部教授会への承認を得しむる意向（昨日  
（12月2日）も予備折衝に入りたいとの意向  
なのだ。

かかると評議会決定は、各学部教授会において、土  
曜日（11月30日）午後三時までに、事後承認される  
ことになっておる。先日の十四日議長「回答」に対  
して、理教授会が反動的対応をなしていったわけ  
であり、今回の決定も、全く確定的なものであると  
断定できないが、現状では毎日全学部教授会で事後  
承認されることは、ほぼまちがいないと判断してよ  
いろう。昨日評議会決定をもって、情勢は急激に変  
化した。これに対し議長は、28評議会決定の  
もつ意味、14日議長回答との関連、質的変化、これ  
に対する原則的な方針について、衆議院の  
鋭い分析によって大胆に提起してゆきたいと考える。  
へかかると評議会決定を出された原因は、なにか

学友諸君、我々は、今やようやく大衆闘争実現を  
しかした。これの前進に控えている。28評議会  
決定はその具体的な表現の記。ではかかると結果は何  
に帰着するのだろうか。我々は確信をもってこう答える。  
6月以降の本館封鎖を管見、一五の目以上にわたる  
長期に、九月以降の全学斗争をそれがまじく、我  
々の強固な抵抗を阻止の意志を大学当局に誇示し  
てきたし、またそれが、各学部教授会の流動化に全

体としての多様な進歩体制の強化をもたらすし、大学当  
局の活動を生み出していったのだ。そして、更に、  
全学斗争を土台に、攻勢的な闘いとして展開された  
学友斗争、本館書籍管理、本館占拠、守衛所占拠  
行動の一種の斗争がこれに拍車をかけ、又14日議長  
回答に対する文の断乎たる拒否、教における教斗特  
の先進的闘いによる事実上の回答無視などによる我  
々の固い大衆闘争実現へのこの意志一致という、  
まさしく我々の主体的な行動力によって、この評議  
会決定はうみだされていったのである。我々はこ  
のことをはっきりと確認してゆかねばならぬ。と  
同時に、「無期限に自治会側を望む」などと又上の長  
期化を回避し14日議長回答にも無原則的に容易に便  
乗するといふ様な回答は、民青系諸君が、いくら自ら  
の成果などゆめをきたしてはとらぬ、それはエサを  
あさるハイエナの言葉でしかなりことを徹底的に暴  
露してゆかねばならぬ。だが学友諸君、我々の強  
固なストライキ斗争の展開があつて始めて、大学当  
局のなまる決定が現実化したとはいへ我々は、日共  
民青系諸君のように「敵は、まずおこめられて  
行く」といふように主観主義的に、これを早く無条  
件に賛美することはできないのだ。リやむし  
う一月の警戒心をもって、この決定を媒介に大学当  
局が何を企図しているかというところをも又強固に自  
覚してゆかねばならぬ。

へ14日議長「回答」と28評議会決定との  
連続性

そのためには14日議長「回答」と28評議会決定と  
の関連を全般的な情勢から明らかにしてゆかねばな  
らぬ。14日議長「回答」と28評議会決定との間に  
は、まず次のような違いが存在する。即ち28評議会  
第一に全学集会（＝実質的大衆闘争）を前提として  
いること。第二に「斗争闘争について」という形で  
はなく、その議論は、学生と大学当局との対峙によ  
って決定してゆくというところである。我々はこの点  
をはつきり認識し、まさしく、大学当局が、なまる  
高まる議論をなすのをえなくなつておるといつくを推し  
えておく必要がある。そして我々の一貫して主張し  
てきた大衆闘争が実現される状況に今立っているこ  
とを確認しなければならぬ。だが同時に大学当局  
が対立闘争の「了断」を「切り」に強固な態  
度から本格的に警戒態に乗り出してきておるとい  
う動向をも見のたしてはならぬ。即ち大学当局は  
一方で「投票を早急に再開せよ」といふ文部省の桐

場「助言」があり、又他方で教官の純動化、学生  
のストの全学的長期化が厳として存在するといつた  
況にあつて、又、入誌、卒業などの「処理」を以て  
中にメドをつけるという時期的制約あり、これら  
もろもろの要因なら「話し合い」路線への転換――  
それによる事態収拾を以てメドに働かしようとし  
てゐるのである。多なる動向を確認するならば、彼  
らの意思が、一歩後退した地味からいかにして、六  
一〇土地確保決定「死守」を大前提にまきみえして  
ゆく女にあるといふのはいふまでもないであらう。  
かかる分析を敢ておしこくするは凡そ民青  
系諸君はたはた予備折衝、全学集会を賛美し「説  
し合ひ」万々路線へとみだはしりせんとするであ  
らうし、昨日学長「回答」への対応はそのことを如  
更に物語つてゐるのである。我々がここで明確に、自ら  
の体内に刻みこまなければならぬのは敵は常に後  
退しつづきおれを遂に自らの「ニラマ」でもつこのり  
きるべく新たな方向性をもつて対処してくるといふ  
ことなのだ。結論的にいふならば決意はまきこく  
我々の敵はた大衆団交実現への地歩をおしつけたこ  
とを示したからこれと同時にそれを巧妙に利用する形  
で「変換」統一事態収拾」を「大傷」へ六一〇決  
定白紙撤回」を以て処理していく大学当局の策動の  
表現がはるかにあるのだ。

へ公開予備折衝を断つべきとれ!! 6/10決定白  
紙撤回をあらゆる收拾案を以てぬのけ貫徹せよ!!

闘う学友諸君!! 大衆団交実現の地歩を我々の闘い  
は切り開いた。次は何か!! まずオ一に我々の長期突  
カ斗争を断乎堅持するともに、予備折衝に断乎と  
して介入し、真に大衆団交を実現すべく、公開予備  
折衝をバリケードの中にかちとらねばならない。予  
備折衝の予備折衝において、我々は、大衆的な予備  
折衝を断乎からとらう。それこそがまさしく、大学  
当局の甘い幻想を打ち碎き、代表会魁で事を済ませ  
うなむこいような機密の策動を粉碎してゆく道であり、  
真の大衆団交を実現させてゆくものなのだ。大学当  
局の一切の居直りと規制をはぬのけ、公開予備折衝  
をからとつてゆこう。その不可欠の前提は、我々の  
断乎たるストライキ斗争の展開であり、ストライキ  
から召喚・逃七しようとしてゐる日共!! 民青の策動  
を徹底的に百日の下にさらし出し、大衆的に弾劾せ  
よ!! そしてオ二にこの公開予備折衝をかちとる甲か  
ら、大学当局の意図を鮮明化せよ!! 我々は、6/10土  
地確保決定白紙撤回↓筑波全面白紙撤回へとつき進  
まなければならぬ。いわゆる「話し合い」路線の  
利便的固定化としての「学生」の声を聞く……とい  
う形での、6/10決定白紙撤回をすりぬけた、校構改

革!! 運営協議会制とはきつぱり手を切らねばならぬ  
い。とりわけ日共!! 民青系諸君が、12日をメドに、  
学園民主化」路線の現実化として、スト收拾の交換  
条件として、調整の範囲、門戸平等、全学協議会  
設置を策動し、自らのヒクト主義的利害を貫徹せん  
としてゐることに、最大の警戒心をはらいつつ、彼  
等の策動を粉碎してゆかぬはならない。それは同時  
に、あらゆる收拾案を以てぬのけてゆく道でもあるの  
だ。

全ての闘う学友諸君!! 公開予備折衝を突破口に、  
真に大衆団交をかちとり、6/10土地確保決定白紙撤  
回へとつき進むもうではないか!! 全学斗争委員会、  
全力投入で最後まで闘うことをはつきり誓いたい。  
各クラスでは、この!! 決意決定に敏感に对应す  
べく、直ちに討論を開始し、万全の準備を整えよ!!  
へスヶジエール

本日12時 クラス代表者会議 小会議室

← 一斉クラ討  
ク時 斗争委員会

30日/時 斗争委員会―闘う学友は総集せよ!!  
於 5/50/1